

# 現役学生による就職活動報告

川口 安奈

Anna KAWAGUCHI

九州産業大学 情報科学部 情報科学科

Department of Information Science, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University

## 私の就職活動 (川口 安奈)

私が就職活動を初めて意識したのは、1年の夏休みです。当時はサークルやバイトなどをしておらず、大学生活を語るものがないと焦りました。何か始めてみようと思い、サークル見学ツアーに参加し、そこで出会ったアーチェリー部に入部しました。私にとってこれが転機でした。元々内気な性格でしたが、学生以外の関係者とも関わることが多く、率先して意思疎通をすることで人脈や行動力を得ることができました。

3年生になり、漠然とIT業界に就職だろうと考えていた私は、学業に力を入れようと考えました。そこで夏休みに、Webプログラミング演習の課題であったコース分けシステムの実用化を試みました。これを機にSEとして仕事がしたいと考えるようになりました。その後もハッカソンイベントに参加したり、プロジェクトベース設計演習で四苦八苦したりと技術的に成長した1年でした。また、学業の合間に情報系資格の勉強を行い、3年の11月には基本情報技術者試験に合格しました。この資格は、後の就職活動で注目して頂くことが多く、取得しておいて良かったと思えました。面接では学業について深く問われることが多く、2・3年次での取り組みや成績がとても重要なポイントになりました。

3年次の6月からは、本格的に就職活動を始めました。リクナビやマイナビなどのインターンシップ説明会にはすべて参加しました。その中で、業種・業界の仕組みや仕事内容などを把握しました。その他、自己分析や書類添削のイベントにも参加していました。そして大手やその子会社を中心に、3年の2月まで1dayインターンシップに10回程行きました。

初めての選考は2月初旬にありました。筆記や面接対策が不十分で、満足に選考に臨めませんでした。また、履歴書のテンプレートが仕上がっておらず、キャリア支援センターや新卒応援ハローワークに通い詰め、バタバタしながらスタッフの方と対策を練りました。

2月から6月末までの間は、月曜日から土曜日まで

説明会や選考で埋まっているようなスケジュールで過ごしていました。そのような中で、なかなか選考が通過できずに苦しんだ時期がありました。周りは内々定を貰い始めており、取り残される感覚に襲われ精神的に辛かったです。その時に、過去の就職活動を振り返りました。私はあがり症で本番に弱いため面接対策が必要であること、人とは違う行動で差異を付けなければいけないことに気がきました。集団面接で経験した上手い話し方や内々定を貰った学生のアドバイスをもとに面接練習しました。情報収集の為に関東地区の説明会にも参加し、選考する企業もこの時期に絞り込みました。その結果、場数を踏むにつれて面接官の様子を気にしながら発言できるようになりました。選考も突破する回数が増え、自信が付きました。7月末にすべての選考を終え、複数の企業から内々定を頂くことができました。志望度が一番高かった企業の内定を受け、就職活動を終了しました。

最後になりますが、私が就職活動で一番苦労したことは中身の充実したエピソードを出すことでした。就職活動では履歴書や面接などで自分がどういう人間なのかアピールしなければなりません。私は部活やシステム開発など様々なことに挑戦してきました。しかし、携わったことに満足してしまっていました。本当に必要だったのは、携わった中で問題定義や目標を立て、解決策を考え、実行した結果を考察することでした。物の捉え方や対処法が個性として見られるということです。私は就職活動を通じて、与えられたことをただこなすのではなく、自らで考え動く経験をするのが大切だと感じました。その経験は学生生活を充実させるだけでなく、後に活かせるものだと思います。

## 著者紹介

川口 安奈(かわぐち あんな)

平成26年3月 鹿児島県立大分高等学校卒業

平成30年3月 九州産業大学情報科学部情報科学科卒業見込み。成研究室所属。

(株)日立ソリューションズ西日本 内定